

第22回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

情報提供・相談支援部会

2024年5月24日（金） 13:00～15:00

オンライン開催

本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 厚生労働省より挨拶
3. 本日の概要
4. 情報提供・相談支援部会のこれまでの歩みと成果
5. 今後の情報提供・相談支援部会のあり方に関するアンケートの報告
6. 大規模災害時のがん相談支援センター間の情報共有について
 - 熊本地震の経験から災害時のがん相談支センターの役割を考える
 - 災害時のがん患者受け入れ状況に関する情報共有の仕組みについて

本日の内容

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

8. その他

-オブザーバーからのコメント

-連絡事項

9. 閉会の挨拶

-部会終了後-

地域相談支援フォーラム報告

ブロック別ミーティング

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会設置要領

(設置)

平成24年11月27日より施行

第1条 拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部機関として、情報提供・相談支援部会（以下「部会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 部会は、次の事項について、情報を共有・検討する。

- (1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、情報共有に関すること。
- (2) 情報提供や相談支援体制の機能強化や質的向上を果たす上で必要となる全国、地域レベルで整備すべき体制とサポート要件の整理
- (3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と（連絡協議会を通じて発信することを想定した）提言に向けた素案の作成

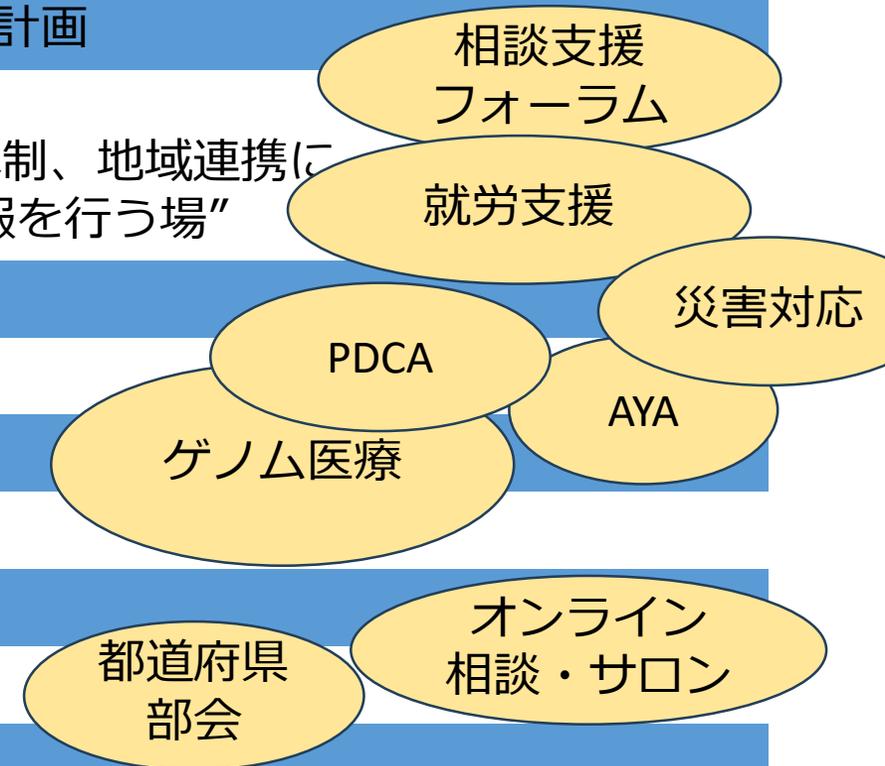
本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 厚生労働省より挨拶
3. 本日の概要
- 4. 情報提供・相談支援部会のこれまでの歩みと成果**
5. 今後の情報提供・相談支援部会のあり方に関するアンケートの報告
6. 大規模災害時のがん相談支援センター間の情報共有について
 - 熊本地震の経験から災害時のがん相談支センターの役割を考える
 - 災害時のがん患者受け入れ状況に関する情報共有の仕組みについて

情報提供・相談支援部会の これまでの歩みと成果

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会の設置

H18	2006	がん対策基本法成立/がん診療連携拠点病院の整備について（厚生労働省健康局長通知）
H19	2007	第1期がん対策推進基本計画
H20	2008	都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の設置
H24	2012	情報提供・相談支援部会の設置 第2期がん対策推進基本計画
H26	2014	がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（改定） “各都道府県のPDCAサイクルの実績や、拠点病院の診療体制、地域連携に関する活動情報等について、情報収集、共有、評価、広報を行う場”
H27	2015	第5回部会 第1期ワーキンググループからの報告
H28	2016	第8回部会 第2期ワーキンググループからの報告
H29	2017	第3期がん対策推進基本計画
H30	2018	第10回部会 第3期ワーキンググループからの報告
		整備指針の改訂
R3	2021	第18回部会 第4期ワーキンググループからの報告
R4	2022	整備指針の改訂
R5	2023	第4期がん対策推進基本計画



都道府県がん診療連携拠点病院
連絡協議会

(事務局)
がん対策研究所

臨床研究部会

(事務局)
研究支援センター

がん(診療連携拠点病院)
臨床開発ネットワーク

がん登録部会

(事務局)
がん対策研究所
がん登録センター

がん(診療連携拠点病院)
院内がん登録
ネットワーク

情報提供・相談支援部会

(事務局)
がん対策研究所
がん情報提供研究部

がん(診療連携拠点病院)
情報提供・相談支援
ネットワーク

緩和ケア部会

(事務局)
がん対策研究所
がん医療支援部

がん(診療連携拠点病院)
緩和ケアネットワーク

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会設置要領

(設置)

平成24年11月27日より施行

第1条 拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部機関として、情報提供・相談支援部会（以下「部会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 部会は、次の事項について、情報を共有・検討する。

- (1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、情報共有に関すること。
- (2) 情報提供や相談支援体制の機能強化や質的向上を果たす上で必要となる全国、地域レベルで整備すべき体制とサポート要件の整理
- (3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と（連絡協議会を通じて発信することを想定した）提言に向けた素案の作成

2. 第1回部会の要旨

主として下記3点が大きな課題として指摘されていると整理された。

1. 相談支援センターのあり方、相談支援センターとして何を評価すべきか、評価してほしいか
 2. 相談支援センターのあるべき姿を実現するために必要な体制・人員配置とはどのようなものか
 3. 相談員の対応の質向上のために必要な教育研修体制はどのようなものか
- 議長より、この3点について検討を深めたいという提案があり、了承された。

第1期ワーキンググループ(2014.12-2015.6)

<検討事項>

1. 【がん相談支援センターの見える化】
2. 【相談件数のカウント方法の諸問題】

<委員>

北海道	北海道がんセンター
岩手県	岩手医科大学附属病院
東京都	がん研究会有明病院
東京都	都立駒込病院
神奈川県	神奈川県立がんセンター
滋賀県	滋賀県立成人病センター
岡山県	岡山大学病院
香川県	香川大学医学部附属病院
福岡県	九州がんセンター
大分県	大分大学医学部附属病院

木川 幸一
三浦 史晴
花出 正美
菊池 由生子
清水 奈緒美
三輪 真澄
石橋 京子
三木 晃子
藤 也寸志
嶋川 由紀

◎ワーキンググループ長

がん相談支援センターがめざすもの

- がん相談支援センターは、**院内外**のがん**患者・家族**ととりまく**すべての人々**が**原則無料**で、必要に応じて**匿名**で、相談できることで、相談者が**孤立することなく、困りごとに対して対処する術を提供**する場所である。
- 相談支援センターの活動は、相談者の**「知る権利」「選ぶ権利」「自分らしく生活する権利」**を守り、エンパワメントするために行われるものであり、がんのすべてのフェイズについての信頼できる情報を集積し、提供する。
- 相談員の役割は、相談者に**寄り添い**、困りごとの**本質をともに考え**、相談者が**十分に情報を得て、納得して治療を受ける**ことができ、就労なども含む**社会的な関係**を保ちながら生活していけるよう支援すること、直接は解決できない困りごとについても、**何らかの対処する術についての情報**を提供することである。相談員は、実際の診療に関わる医師、看護師からは**中立の立場**で、**コーディネーター、アドボケート**、患者・家族の理解を促進するような**説明、橋渡し**を行う。また、患者・家族をサポートするための**地域ネットワークを構築**する。
- このがん相談支援センターや相談員の活動は、**「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」の一翼を担う**ものである。

がん相談支援センター指標骨子

<目標の整理と対応する指標について>

アウトカム			プロセス		測定指標		構造	施策
患者・家族・市民			がん相談支援センター		測定関連指標	調査関連	体制	整備指針の内容
最終目標	準最終目標	必要な条件	必要な条件・状態	実施状況の例示				
困っている患者・家族が減る	頼りにできる人・相談の場がある	相談の場があると感じる人が増える	その人にとってアクセスしやすい相談場所・相談の入り口がある	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの窓口をわかりやすく提示した ・センター外で出張がん相談を行った ・ピアサポートの場をつくった ・・・ 	院内・院外での相談対応件数	【住民調査】 【患者体験調査】 「相談の場がある」の回答割合	相談ブース数 プライバシーの保てる部屋数 電話回線数 直通電話の有無 相談員数 ・・・	必ず「がん相談支援センター」と表記する 相談支援センターについて積極的に周知する ・・・
		相談支援センターの役割を知っている人が増える	多様な相談先がある	複数の相談場所がある				
		患者が孤立しない	情報や助けを求めている人に気づく人が増える	・案内を個別に配布している				

ワーキンググループからの提案

1. 基本方針に則り、作成した修正版相談記入シートによって相談件数を統一して把握する
 2. 統一した方式で相談件数を把握することにより、「活動の見える化」に寄与する数値を算出する
 3. データの全国の提出方法については、部会事務局であるがん対策情報センターまたは関連研究班による支援を受けることで負担の少ない記録方式を検討する
- 1～3の提案に沿った形で実施するかどうか、各都道府県ごとに意見をとりまとめ、次回部会にて決定してはどうか。

第2期ワーキンググループ(2016.6-2016.12)

<検討事項>

第3期がん対策推進基本計画の策定（H29年6月）を控え、患者・家族・市民から寄せられる困りごとで未解決の課題を整理し、がん相談支援センターが担うべき役割を明らかにする。

<委員>

北海道	北海道がんセンター	木川幸一
岩手	岩手医科大学附属病院	青木慎也
東京	がん研究会有明病院	花出正美
東京	都立駒込病院	菊池由生子
神奈川	神奈川県立がんセンター	清水奈緒美
奈良	奈良県立医科大学附属病院	長谷川 正俊 ◎ワーキンググループ長
大阪	大阪府立成人病センター	藤井 照代
島根	島根大学医学部附属病院	槇原 貴子
岡山	岡山大学病院	石橋 京子
福岡	九州がんセンター	古川 正幸

がん相談支援センターが担うべき役割に関するアンケート

実施方法：

部会委員メーリングリストおよび拠点病院がん相談支援センター実務者のメーリングリストを通じて依頼
都道府県拠点にて回答取りまとめ

質問：

貴院の患者さん、ご家族、市民のがんに関する困りごとのうち、**現在対応されていない解決されていないと思われることはどのようなことですか。**

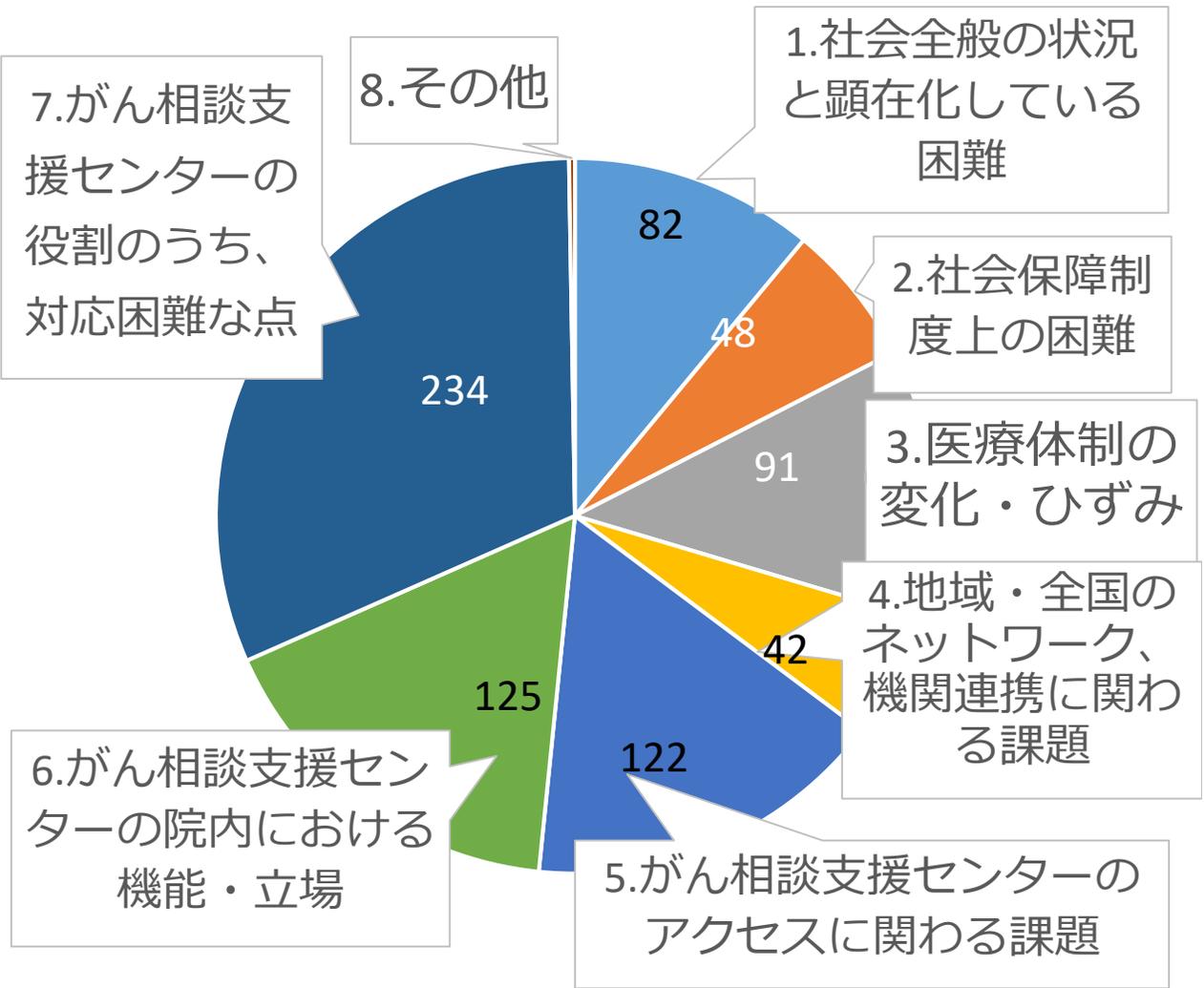
また、それは、がん相談支援センターを含め、どのような部門がどのように担うべきことだと思われま
すか。

回答（自由記載）：

困りごと、担当すべき部署と対応案、回答部署

回答数として746件 全47都道府県からの回答

⇒第8回がん診療提供体制の在り方に関する検討会
第60回がん対策推進協議会
親会への提案を通じた、がん対策推進協議会会長への提案書



挙げられた課題と対応のうち、施設レベル・都道府県レベル・部会レベルで対応すべきこと

- 対応1：院内、都道府県および国レベルでのがん相談支援センターの機能・役割についての周知活動強化
- 対応2：がん相談支援センターの望ましい組織体制や役割機能の再整理と都道府県単位の取り組みを十分に行うための事務局体制の拡充
- 対応3：全国のがん相談支援センター間のネットワークの活用によるがん相談支援センターの情報共有と活動の強化
- 対応4：がん相談支援センターと関係部署が緊密に連携して、センターから情報が適切にフィードバックされ、状況の改善に繋がる仕組みの構築
- 対応5：相談支援と各部署の連携体制の改善とその成果に関するPDCAサイクルを応用した評価システムの構築

第3期ワーキンググループ(2017.8-2017.11)

<検討事項>

第3期がん対策推進基本計画を踏まえて策定される見込みのがん診療連携拠点病院等に関する整備指針に反映されるべき要素、力点の検討

<委員>

秋田県	秋田大学医学部附属病院	秋山みどり
東京都	がん研究会 有明病院	花出正美
神奈川県	神奈川県立がんセンター	金森平和
岐阜県	岐阜大学医学部附属病院	堀川幸男
愛知県	愛知県がんセンター中央病院	船崎初美
滋賀県	滋賀県立総合病院	岡村理
大阪府	大阪国際がんセンター	池山晴人
高知県	高知大学医学部附属病院	前田英武
福岡県	九州がんセンター	竹山由子
沖縄県	琉球大学医学部附属病院	増田晶人

◎ワーキンググループ長

がん診療連携拠点病院等の整備指針への 提案に向けた検討ワーキンググループ

「がん相談支援センターにおける情報支援の状況および次期整備指針策定の提案に向けたアンケート」を行い、第3期がん対策推進基本計画でがん相談支援センターに期待されている内容のうち、整備指針への反映にあたって、考慮が必要な内容について全国のがん相談支援センター（255施設）が回答。

その回答結果を整理し、下記提言にまとめた。

1. 検討の結果をまとめた「[がん相談支援センターの今後のあり方に関する検討結果](#)」
2. 実施主体別に再整理した「[がん相談支援センターについて、がん診療連携拠点病院の整備指針において記載すべき事項に関する意見書](#)」
3. 整備指針について具体的な修正案を示した「[平成26年1月10日発 がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針「4 情報の収集提供制」\(p11-13\)に対する修正意見](#)」

3点を、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会（親会）議長に提出。

2, 3については、親会からの提案「**2017年11月27日 がん診療連携拠点病院に求められる機能に関する提案**」の別添資料として、厚生労働省に提出

第4期ワーキンググループ(2021.12-2022.2)

<検討事項>

がん相談支援センターへのアンケート、拠点病院対象の整備指針に関するアンケート結果を総括し、**次期基本計画および整備指針に向け、情報提供・相談支援に関わる事項についての提案**を取りまとめる

<委員>

山形県	山形県立中央病院	鈴木	克典	
群馬県	群馬大学医学部附属病院	渡辺	恵	
東京都	がん研究会有明病院	花出	正美	
滋賀県	滋賀県立総合病院	山内	智香子	○副ワーキンググループ長
滋賀県	滋賀県立総合病院	岡村	理	
大阪府	大阪国際がんセンター	池山	晴人	
長崎県	長崎大学病院	川崎	浩二	◎ワーキンググループ長
沖縄県	琉球大学病院	増田	昌人	

提案書のポイント

- 拠点病院に設置されたがん相談支援センターは、すべての患者、家族、地域住民が利用できるがんに関する**情報提供拠点**としての役割を担っている。
- がん患者や家族等の心配・悩みの軽減、安心して暮らせる社会の構築に貢献するため、**下記に示すような目標と、それらに対応した行動指針・指標を整備していくことが重要**であると考えられる。

＜拠点病院における相談支援と情報提供機能の充実を目指す目標＞

1. がん診療連携拠点病院としてすべてのスタッフが、患者や家族等の不安や困りごとに気づき、必要な情報提供や支援を行い、必要時には、がん相談支援センターにつなげられるようになることを目指す。
2. 患者や家族等のがんによる不安や困りごとに適切に対応できるよう相談支援の場を利用しやすくするとともに、適切な支援につながることを目指す。
3. 患者や家族などの相談者が安心して利用できるよう、公平で、中立な相談の場を確保し、患者や家族などの相談者が、科学的根拠に基づく信頼できる情報等をもとに、（その人なりの）意思決定ができる体制を整備する。
4. 質の高い相談支援を提供する体制を整備する。
5. がんになっても安心して暮らせるよう、地域の関係者らと協力して、社会にがんに関する適切な理解を促すことを目指す。

提案書のポイント

- これらの目標が達成されるためには、がん相談支援センターだけでなく、**より大きな組織（行政、都道府県がん診療連携協議会、拠点病院等）単位での対応も重要になる**ことから、相談支援や情報提供に関する提案案を対象別に記載した。
- **都道府県がん診療連携協議会の情報集約機能や役割分担・連携構築の議論を主導する機能、また患者団体と拠点病院の間をつなぐコーディネート機能等を強化**することが必要である。
→ **上記2点の主張の重要であることは認識され、積極的な役割を担うことが明記された**
- **拠点病院では、病院をあげて、患者家族支援体制を整備することや診断初期の患者に必要な情報を確実に伝える体制を整備**することが必要である。また、がん相談支援センターで提供される支援の質を担保するため、整備指針上での**人員配置要件や相談員の研修修了要件の見直し**が必要である。
→ **「病院を挙げて」の姿勢と、「確実に伝える体制」は採用
人員配置要件は採用されず**

情報提供・相談支援部会の取り組み

- がん相談支援センターに求められる役割の自己定義
- がん相談支援センターの活動の可視化、質の担保のための自らの基準作り
- がん対策、施策に関する厚生労働省や関連機関からの情報提供
- よりよく役割に応えるための好事例の共有
- がん相談支援センターに集まる患者、家族、社会のニーズから見たがん対策推進基本計画への提言
- がん相談支援センターがよりよく機能するための拠点病院、整備指針への提言
- 患者委員からのフィードバック

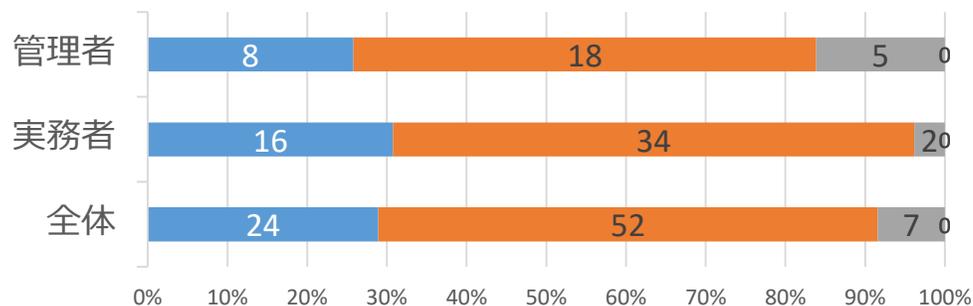
本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 厚生労働省より挨拶
3. 本日の概要
4. 情報提供・相談支援部会のこれまでの歩みと成果
- 5. 今後の情報提供・相談支援部会のあり方に関するアンケートの報告**
6. 大規模災害時のがん相談支援センター間の情報共有について
 - 熊本地震の経験から災害時のがん相談支センターの役割を考える
 - 災害時のがん患者受け入れ状況に関する情報共有の仕組みについて

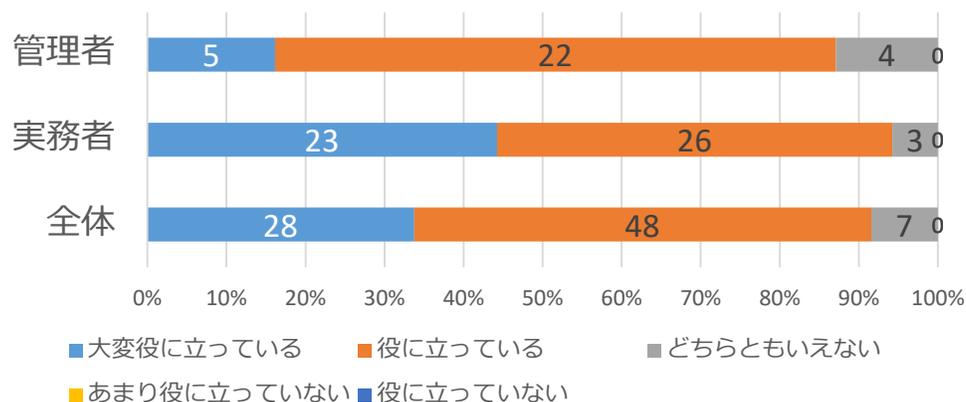
今後の情報提供・相談支援部会の あり方に関するアンケートの報告

部会の取り組みは、自施設・自県・全国の質の向上・発展にどの程度役立っていると思いますか。(N=83)

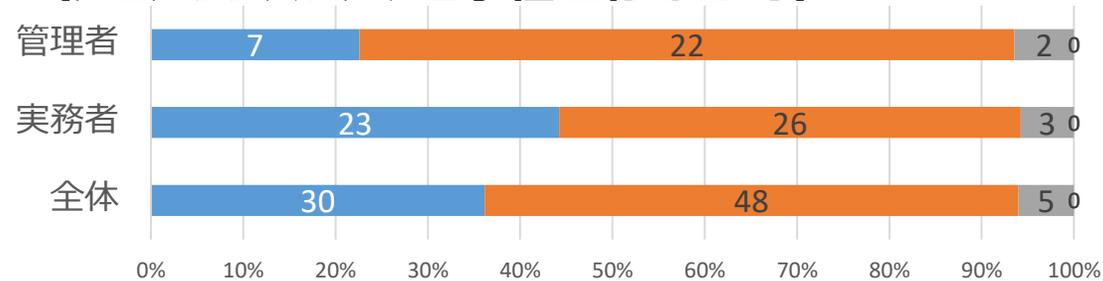
整備指針や基本計画の改訂に向けた提案書作成



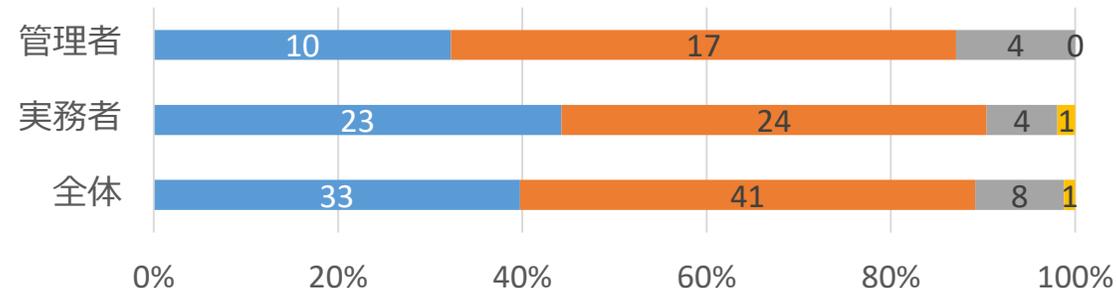
基本計画や整備指針に関する厚労省からの直接説明、質疑応答の場



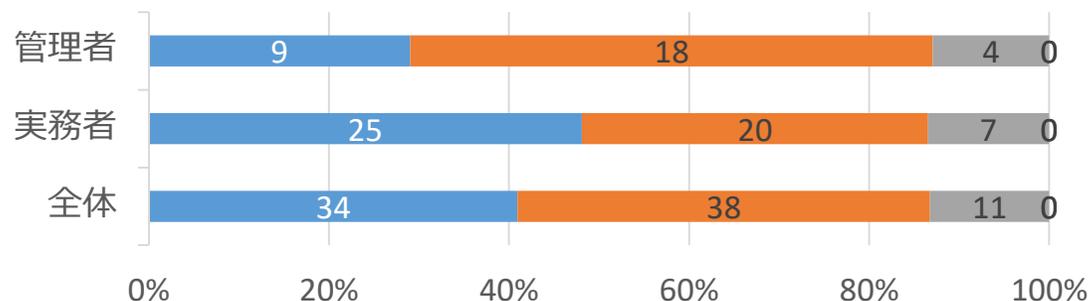
整備指針等で新たに明記された分野の専門家の講義（アピアランスケア、妊孕性温存療法等）



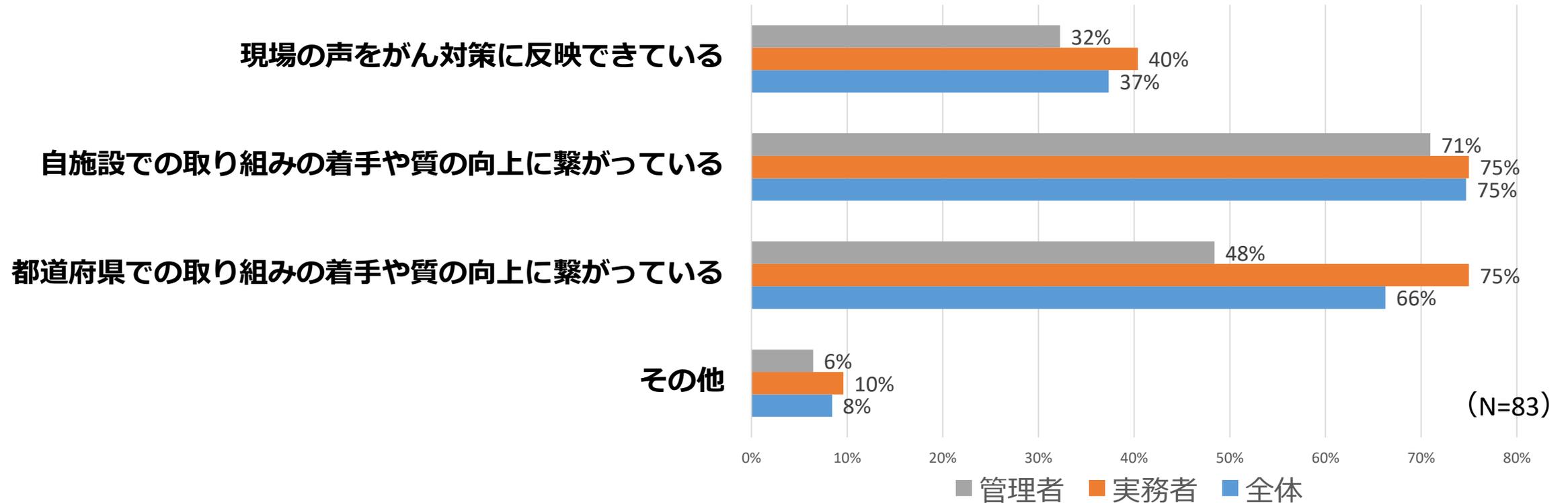
全国の好事例や先駆的活動の共有（がん相談支援センター周知の取り組み、小児がん長期フォローアップ体制等）



がん相談支援センター共通の基準や資材の作成と提供（PDCA実施状況チェックリスト、がんと診断されて間もない人への情報資材等）

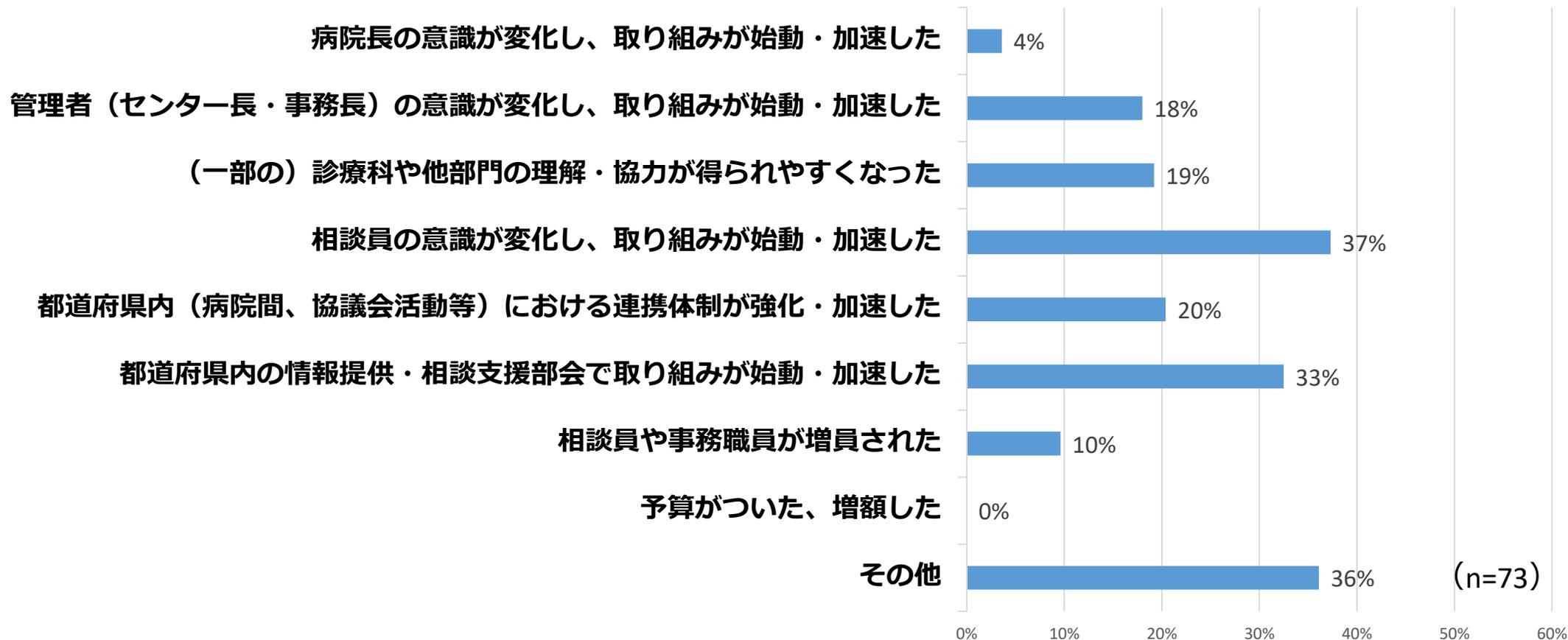


情報提供・相談支援部会の意義・効果として感じていることを教えてください。（複数回答）



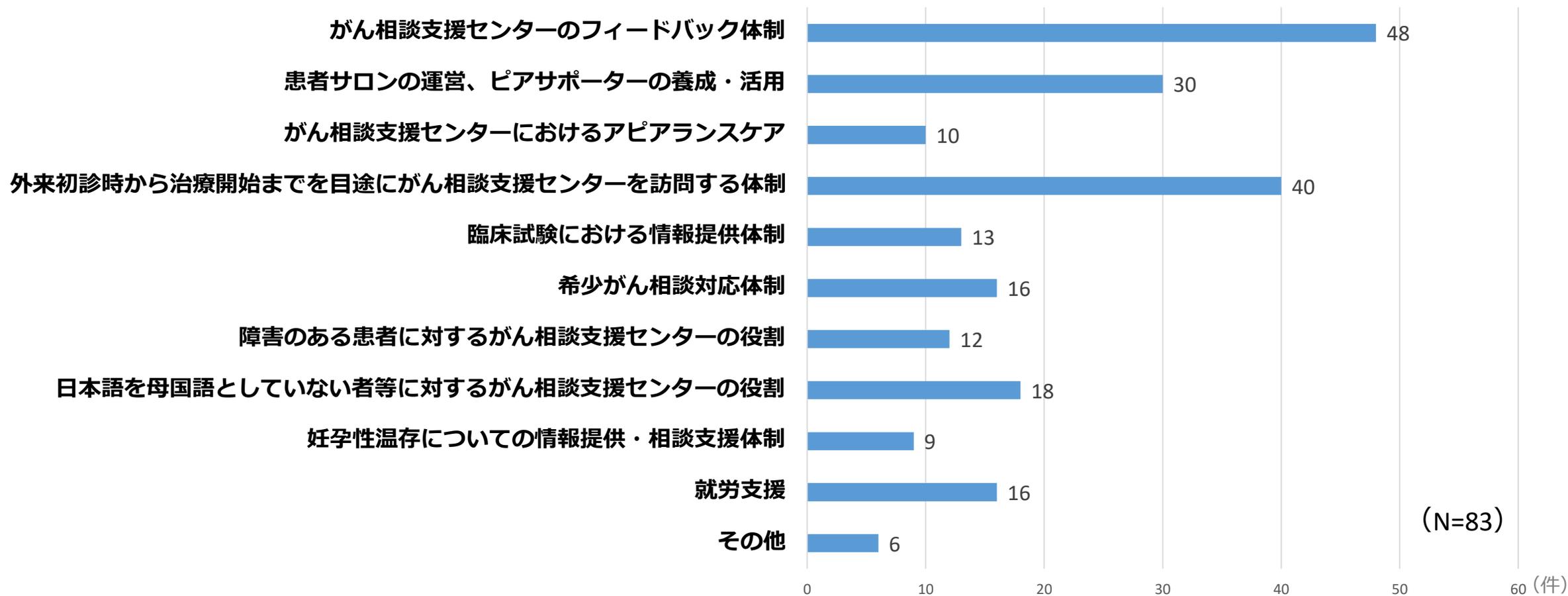
自施設、自県への取り組みにはつながっているが、「現場の声をがん対策に反映できている」という感覚は低め

現状や好事例の共有により、自県・自施設で始動・加速しましたか



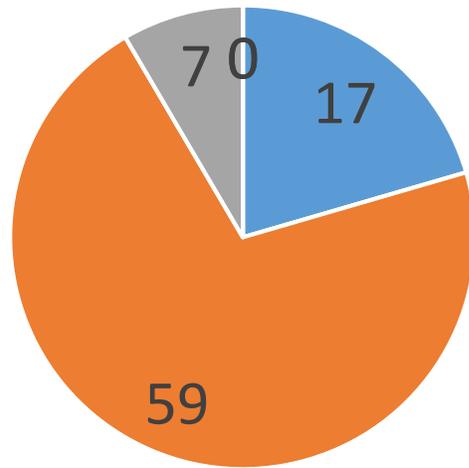
現場でできる範囲については、ある程度の影響力はあった

今後、確認したい現状および聞いてみたい好事例や先駆的活動



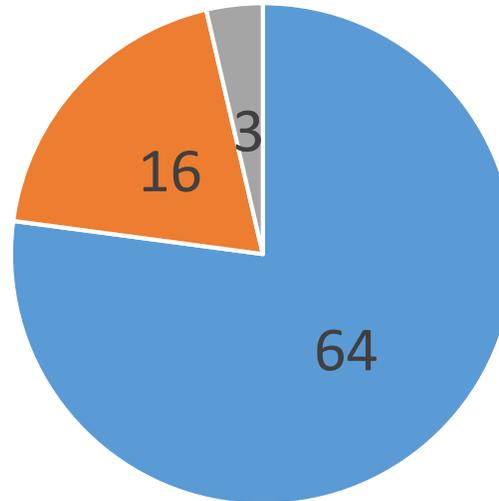
開催方式や開催頻度についての希望 (N=83)

定期的な開催の希望



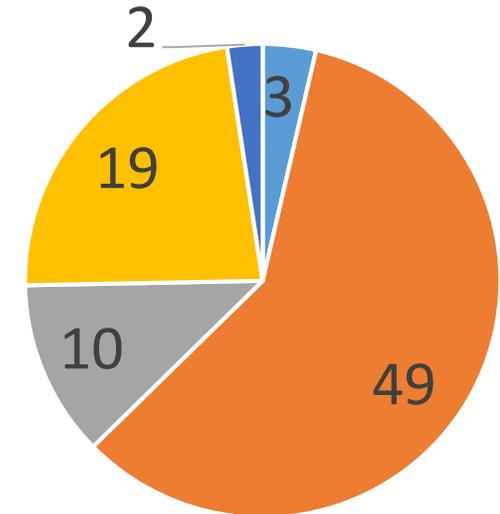
- 強く希望する
- 希望する
- どちらでもない
- 希望しない
- 分からない

開催頻度の希望



- 年に2回 (現状維持)
- 年に1回
- 分からない

開催形態の希望



- 集合開催がよい
- オンライン開催がよい
- 集合開催とオンライン開催が交互にあるとよい
- オンライン開催を中心に集合開催も何回かに1回かあるとよい
- その他

年に2回、オンラインを中心に、時々集合が希望多数

今後の情報提供・相談支援部会について

- 現状では、現場で収集したニーズや提案は、がん診療連携拠点病院連絡協議会（通称・親会）で、報告される形となっている。十分に議論され、より有効に意見が反映されるためにはどうしていくとよいか。
- 開催については、年に2回の頻度を維持しつつ、オンラインを中心に、2年に1回（4回に1回）程度の集合開催を予定していくのが有効ではないか。

本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 厚生労働省より挨拶
3. 本日の概要
4. 情報提供・相談支援部会のこれまでの歩みと成果
5. 今後の情報提供・相談支援部会のあり方に関するアンケートの報告
6. **大規模災害時のがん相談支援センター間の情報共有について**
 - 熊本地震の経験から災害時のがん相談支センターの役割を考える**
 - 災害時のがん患者受け入れ状況に関する情報共有の仕組みについて

2024年5月24日

第22回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会

熊本地震の経験から災害時の がん相談支センターの役割を考える

熊本大学病院
安達美樹

本日の内容

1. **熊本地震発生後**がん相談支援センターの
取り組み
2. 熊本地震を経験した患者・相談員の声をもとに**災害時BCPとがん相談支援センターの役割**を考える

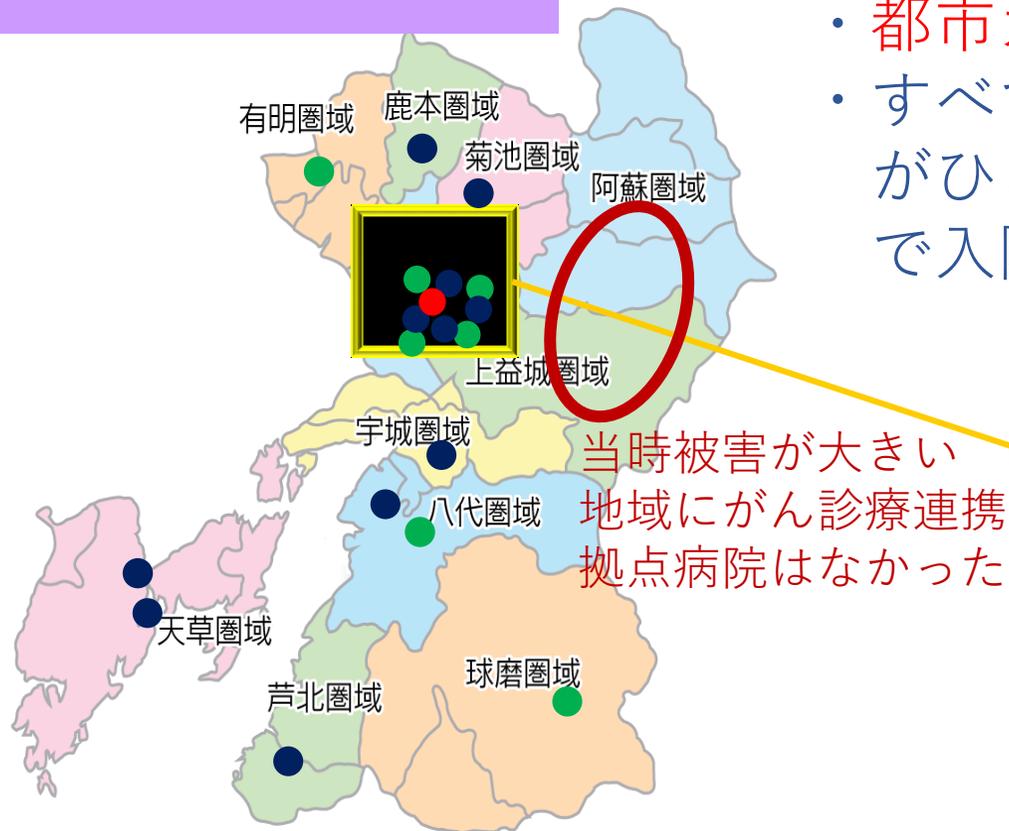
1. 熊本地震発生後がん相談支援センターの取り組み

熊本地震発生後

2016年4月14日 21:56 震度 7
2016年4月16日 01:25 震度 7

熊本市内の病院9施設

- ・ 停電6施設 ・ 水供給停止8施設
- ・ 都市ガス停止7施設
- ・ すべての施設が建物損壊あり。2施設は損壊がひどく入院患者は転院。当院もバスやヘリで入院受け入れ。



- 国指定 都道府県がん診療拠点病院 (当院)
- 国指定 地域がん診療連携拠点病院 (7施設)
- 熊本県指定 がん診療連携拠点病院 (11施設)

【熊本圏域拡大】

熊本大学
医学部
附属病院

済生会熊本病院

熊本地震時の当院の被災状況と役割

当院の被災状況

- ・ **建造物** ・ ・ 病棟は免震構造で影響なし
新外来棟 ・ 研究棟 ・ 管理棟は一部損壊から全壊
- ・ **電気、通信** ・ ・ 問題なし
- ・ **ガス** ・ ・ ・ 余震も続き使用不可 → **7日後**に復旧
- ・ **水** ・ ・ ・ 断水、濁りのある水 → **13日後**に復旧

職員の被災状況

- ・ 避難生活者多数、休校・休園 → **育児中の看護師は勤務困難**
- ・ 食料品を扱う店舗は時間限定 → **職員自身の食料の確保困難**

当院の主な役割

- ・ **被災した施設の入院患者受け入れ** ・ ・ バス・救急車で搬送
全壊した病院や他施設から、**入院患者101名**の受け入れ
- ・ **三次救急** ・ ・ 県内重傷者の治療 → **ヘリコプターで他県へ搬送**
実際は、他施設が混雑のため軽傷者も来院
4月14日～27日救急患者受け入れ575名（震災関連303名）

熊本地震のとき当院のがん専門相談員の勤務

前震14日
21:56

14日

- 地震発生後病院へ。次の日の外来診察に備え、片付け

15日

- 外来診療の手伝い。がんサロンネットワークへ「役立ちマニュアル（がん患者編）災害発生初期マニュアル」を発信

本震16日
01:25

16、17日

- 救急外来や転院患者を多く受け入れた病棟の応援

18日

- がん相談支援センターで勤務。県内外施設やマスコミからの問い合わせ多数

19日

- 当院がん治療に関する部門や連携室と情報共有。わかる範囲でWGメンバーにメーリングリストを活用し情報提供

20日

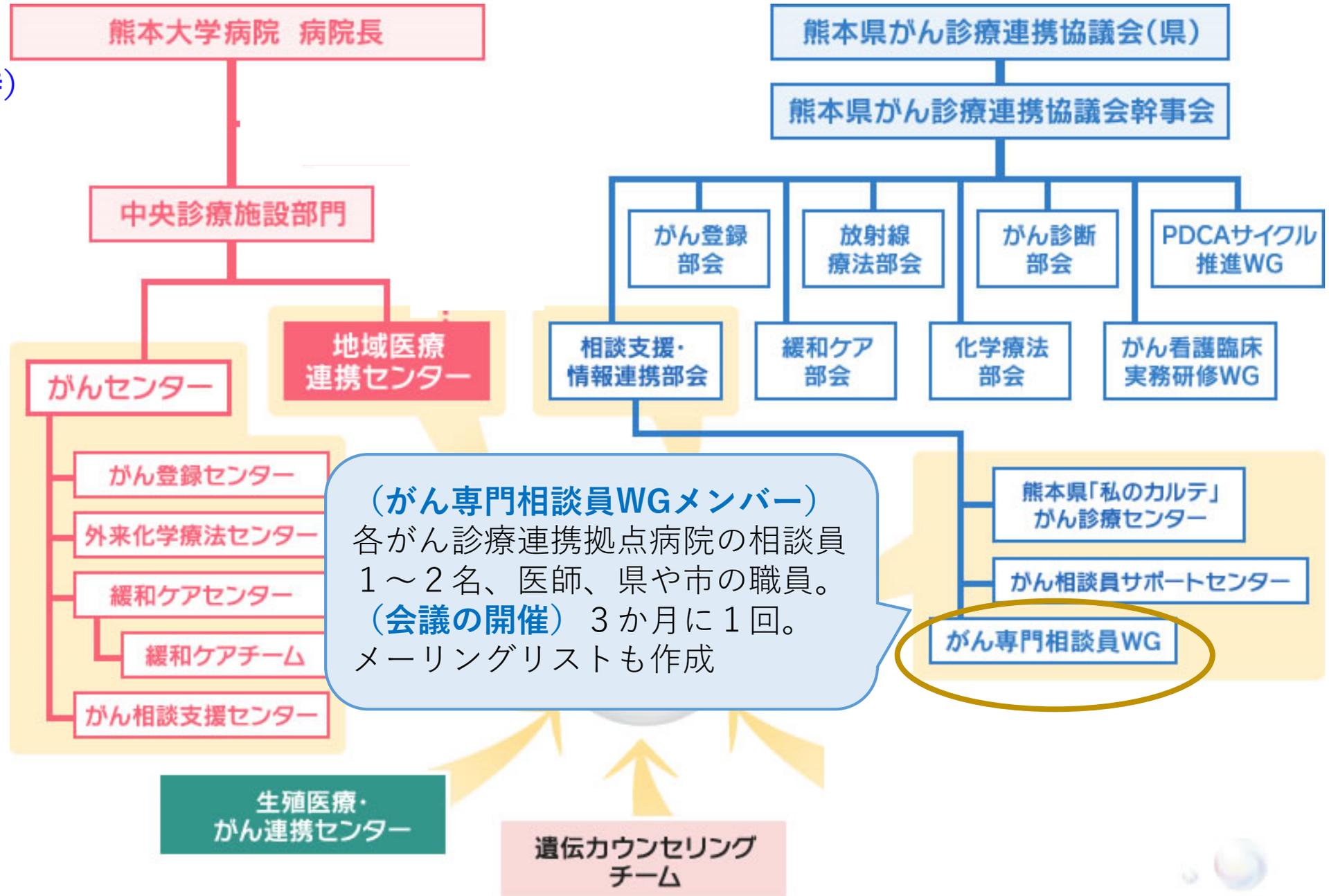
- 正式にがんセンター災害臨時会議立ち上げ。
- がん対策情報センターから電話があり支援内容を話し合い

負傷者の対応が優先
相談員も現場対応へ

治療や入院がどこで
できるか、現場で対応
している相談員に
情報は届いていない



熊本大学病院
組織図
(地震発生当時)



震災時、なぜがん相談支援センターを中心にした活動？

災害時もがん相談支援センター相談員の強みを活かす

① 普段業務の活用

がん患者のがん全般に関する情報提供や療養に関する相談対応
地域の医療機関や医療従事者への情報提供
相談内容に応じて専門職に繋げる役割

② 既存の活用（熊本県の強み）

がん専門相談員WGメンバーで顔の見える関係構築ができている
WGのメーリングリストもありスムーズに情報共有が可能
熊本県がんサロンネットワークでも情報共有が可能
熊本県内共通のがん相談支援センターの既存のチラシが活用

当院がんセンター－災害臨時会議内容の情報発信

当院がんセンター臨時会議

- ・がんセンター長
- ・化学療法センター長
- ・放射線治療部教授
- ・緩和ケアセンター長
- ・地域連携センター長

県内がん治療の状況
治療受け入れ可能人数。
療養の場の受け入れ人
数などの情報の確認・
共有

- ・がんセンター看護師長
- ・地域連携センター
看護師長
- ・がん相談支援センター
副看護師長

がん専門相談員WG
メンバー

当院がノ

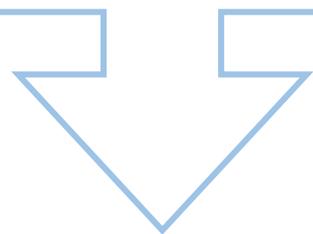
情報

医療者、

- －被災している私たちの現状－
- ・情報は収集してもまとめる時間がない
 - ・近隣県までの情報を得る手段はない
 - ・患者さんたちへの情報の拡散に限界
 - ・マスコミや近隣施設からの問い合わせも多く、統一した情報にしたい

情報発信で意識したこと

東日本大震災を経験した
がん相談支援センターからのアドバイス
「**正確な情報を正確な機関から出し続けること**」



情報の混乱を避けるため

患者・家族・医療者・行政・マスコミ
同じ情報にする

国立がん研究センター「熊本地震に関する情報」にリンク先を統一

平成28年熊本地震に関する情報

更新日: 2016年05月11日 [[更新履歴](#)] 掲載日: 2016年04月19日

■[熊本県・大分県のがん相談支援センター](#) ■[熊本県、大分県の各病院の状況](#) ■[周辺各県における被災地のがん患者さんの受け入れ対応状況](#) ■[情報リンク集](#)

被災者の皆さまに、心より御見舞い申し上げます。
熊本県、大分県、周辺各県における国指定のがん診療連携拠点病院などの状況についてお知らせします。

■熊本県・大分県のがん相談支援センター

現在、一部の病院で若干の制約がありますが、がん相談支援センターの窓口への相談は可能です。お困りの方は下記の窓口にご相談ください。

- ・ [熊本県のがん相談支援センター](#)
- ・ [大分県のがん相談支援センター](#)
- ・ がん情報サービスサポートセンター(国立がん研究センターがん対策情報センター)
熊本県、大分県のがん相談支援センター、また全国のがん相談支援センターとも連携しながら相談対応させていただきます。詳しくは「[がん情報サービスサポートセンターのご案内](#)」をご覧ください。



[熊本県がん相談支援センター
広報ちらし\(PDF: 187KB\)](#)

■熊本県、大分県の各病院の状況

国指定のがん診療連携拠点病院などの、がん相談支援センター、化学療法、放射線治療、緩和ケア(がんの痛み、苦痛緩和への対応)などの対応状況をまとめました。

- ・ [熊本県の病院におけるがん患者さんの受け入れ体制調査\(PDF:184KB\)](#)
【2016年5月11日(水)午前10時現在】
- ・ [大分県の病院におけるがん患者さんの受け入れ体制調査\(PDF:72KB\)](#)
【2016年4月26日(火)午前10時現在】

■周辺各県における被災地のがん患者さんの受け入れ対応状況

2. 熊本地震を経験した患者・ 相談員の声をもとに災害時BCPと がん相談支援センターの役割を考える

熊本地震を経験した患者さんの声（一部抜粋）

救急外来の場面

- ・ 前の病院のカルテとかないですか。
自分のがんの病状がよくわからない
- ・ 自分が受けている治療名がわからない
- ・ 痛みどめ何飲んでるかわからない

生活編

- ・ 車中泊が続き下肢のリンパ浮腫が悪化
- ・ 抗がん剤の副作用がつかった。避難所で人目もあり横になれない。
(機能障害のため) 避難所の食事で食べられるものがなかった
- ・ 副作用の影響や気持ちも気力がなく家の片づけができなかった

医療編

- ・ 病院と連絡が取れなかった
- ・ 自分の病院の状況がわからず治療が続けられるのかわからなかった
- ・ 他の病院もどうなっているかわからず治療ができるか心配だった
- ・ 薬が短期間分処方では通院が大変だった

闘病意欲への影響編

- ・ 末梢神経障害で避難所まで歩けなかった。給水も行けなかった。こんなになるまで治療を頑張ったのに。もうどうでもいい
- ・ 地震で家族も自分のことで精一杯。治療の送迎は頼めない

熊本地震 5 か月後、がん診療における災害時の対応を検討

(コアメンバー) 被害が大きかった熊本市内6施設のがん相談支援センター医師と相談員10名
熊本県健康推進課職員2名

避難するとき
みんな財布とスマ
ホをもって逃げた

普段から自分の病気
や治療に関心を向け
るためには？



災害時に必要ながん
の情報は？収集方法
は？

既存があれば活用
できる

他にも、集まることの効果はこれだけではなかった

取り組んだこと：①患者さんに向けて、携帯できるカードの作成

(外側)



がん相談支援センター電話番号

(内側)

災害が起こったとき MEMO

病気のことや治療状況を医療者に伝えられますか？

薬が手に入らない時はどうしたらいいか知っていますか？

かかりつけの病院と連絡がつかない時はどこに尋ねればいいのか知っていますか？

災害時、困った時はココだもん！
がん相談支援センターへ

【緊急時に連絡する医療機関】

①	病院名		
	担当医		
	☎	-	-
②	病院名		
	担当医		
	☎	-	-

MEMO (お薬やアレルギーのことなど)

POINT！！

- ・簡潔明瞭
- ・セルフケア重視
- ・質問形式
- ・財布は持って逃げるので、カードサイズ

2つに折り曲げると名刺サイズ

取り組んだこと：②災害時のがん診療情報収集、共有の方法を検討

災害時がん診療情報共有要領(熊本県)

平成31年(2019年) 2月26日
熊本県がん診療連携協議会・熊本県

本要領は、以下のいずれかの場合に適用する。

- ・県内で震度6以上の地震が発生した場合
- ・県内でがん診療に影響が出る恐れのある大規模災害が発生した場合
- ・近隣県で震度7以上の地震が発生した場合

① いつ(タイミング)

- ・災害発生後、12時間以内に初報
- ・初報後、毎日2回、3日間、9時・15時までに
- ・4日目以降、毎日1回、15時までに
- ・1ヵ月以降は、週に1回、火曜日、15時までに
- ・終了は、災害対策本部の解散または緊急性がないと判断されるとき

② 何を(情報)

- ・診療内容(外来、入院、がん相談支援、手術、化学療法、放射線療法、緩和ケア)毎の診療状況(通常通り、一部制限、不可、再開見込み)等

③ 誰が誰に(集約ルート)

- ・がん拠点病院に災害時がん情報担当を置く。
- ・災害時がん情報は「がん相談支援センター」に集約する。
- ・各がん拠点病院の災害時がん情報担当は、県に「災害時情報共有シート」を送る。
- ・がん診療連携協議会(以下、「協議会」という。)は、必要に応じて、協議会の情報を取りまとめ、県に取りまとめた情報を送る。

④ 伝達手段

- ・メールまたはFAX、SNSで送付

⑤ 周知・開示(周知ルート)

- ・県は、情報を取りまとめ、県ホームページに掲載。
- ・県は、取りまとめた情報を国立がん研究センターに送り、国立がん研究センターのホームページへの掲載を依頼する。
- ・県は、取りまとめた情報を、各がん拠点病院の担当者に周知する。
- ・各がん拠点病院の担当者は、各がん拠点病院のがん相談支援センターに周知する。
- ・各がん拠点病院のがん相談支援センターは、院内に周知する。

⑥ 本要領を実現する具体的手順・方法

- ・県は、県ホームページ「災害時がん情報」を新設する。
- ・県を通じて、県内のがん拠点病院の他、医師会、薬剤師会、看護協会、自治体に通知する。
- ・県外の医療機関、学会、団体等からの問い合わせに関しては、適宜、県及び協議会で対応する。

災害時がん診療情報共有要領(熊本県)

③誰が誰に ④伝達手段:メール・FAX・SNS ⑤周知・開示

各機関	地域がん拠点病院 県がん拠点病院	県がん診療連携協議会 熊本大学医学部付属病院 (都道府県がん拠点病院)	熊本県
準備	院内情報共有方法の 検討・決定	各がん拠点病院の災害時がん情報担当の決定・名簿の共有 (がん専門相談員、第3順位まで確保)	
災害発生	実施基準に基づく災害で発動 (県内震度6以上、がん診療に影響が出る大規模災害、近隣県で震度7以上)		
12時間 以内	がん診療情報の収集 1回目の報告 発生後12時間以内 (院内の情報を共有)	情報の取りまとめ 必要に応じて会長、 幹事長、各部長で 情報共有・対応の検討	ホームページに掲載 以下、順次更新 情報確認不可の病院に対して 災害対策本部経由で 情報提供対応
緊急で個別対応が必要な場合は、情報収集のための対応協力を要請			
3日 以内	1日2回報告 (9時、15時までに報告)	情報の取りまとめ 共有・検討	ホームページに掲載 11時、17時に公表
4日 以降	1日1回報告 (15時までに報告)		ホームページに掲載 翌朝8時までに公表
1ヵ月 以降	週1回報告 (毎週火曜日15時までに報告)		
終了	災害対策本部の解散 (緊急性がないと判断される場合)		

外部を受け入れる受援力の必要性

「受援力」とは、ボランティアを地域で受け入れる環境・知恵のこと

「地域の受援力を高めるために」パンフレットより抜粋 内閣府防災担当」

熊本地震の時に国立がん研究センターがん対策情報センターからの支援

- ・目の前の混乱した状況が整理され、冷静に現状の変化を把握することができた
- ・大震災を経験した相談員からのアドバイスなど有効な情報提供を受け、情報統一のきっかけとなった

災害時は医療の現場は混乱し冷静に判断することが難しい状況だからこそ、外部からの指揮が有効。

受援力がなければ、有効であっても外部支援を活かすことはできない。

まとめ

今回改めて災害に備えたがん相談支援センターの役割を考える

①平常時の相談から災害を意識した関り

- ・ 相談時に災害を意識した内容を伝える

②情報連携システムの災害訓練

- ・ 院内や県内のがんに関する情報収集・発信の確認および災害に備えた訓練

③行政等との協働

- ・ 県の強みを知る
熊本の場合は行政、部会、がん専門相談員WG、がん連携サポートセンター、熊本県がんサロンネットワークと関係構築ができています
- ・ 災害時の外部支援との協働

④災害に関する普及・啓発活動

- ・ 地域のイベントのときや院内のイベントなど災害の備えを考える機会を意識する

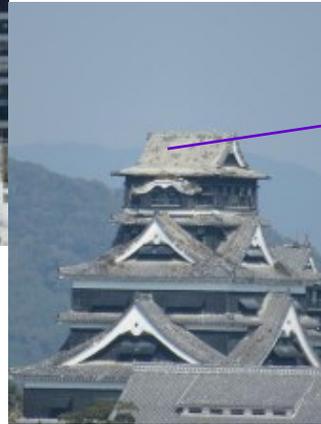
⑤自分たちも被災者になることを忘れない

- ・ 自分自身の災害に対する備えの準備



ご清聴ありがとうございました
8年前から多くの支援をありがとうございます

8年前



現在



修繕がすすんでいます

本日の内容

1. 開会の挨拶
2. 厚生労働省より挨拶
3. 本日の概要
4. 情報提供・相談支援部会のこれまでの歩みと成果
5. 今後の情報提供・相談支援部会のあり方に関するアンケートの報告
6. **大規模災害時のがん相談支援センター間の情報共有について**
 - 熊本地震の経験から災害時のがん相談支センターの役割を考える
 - 災害時のがん患者受け入れ状況に関する情報共有の仕組みについて**

災害時のがん患者受け入れ状況 に関する情報共有の仕組みについて

部会事務局

災害発生後にがん患者が困ること

- 継続して受ける必要のあった薬物療法や放射線治療が受けられない
- 入院（緩和ケア目的など）ができない

→がん患者が長期にわたってがん治療から疎外される状況を防ぐ必要性

さらに長期になると、いつまでもサロンが再開されない、「大変な災害の中で、病気の悩みなどは優先度が低い」と思ってしまう孤独なども加わる

これまでの取り組み（東日本大震災以降）

「被災地周辺地域受入体制調査フォーマット（EXCEL）」を用いて、被災地や周辺地域の がん患者受け入れ状況の情報収集を行い、WEB（がん情報サービスに）公開していた。

●●県の病院におけるがん患者さんの受け入れ体制調査													20●●年●月●日(●) ●時現在			※青字は20●●年●月●日(●) ●時からの変更部								
記載された連絡時点での調査に基づいて掲載しています																								
被災地 医療機関対応状況													周辺地域 医療機関受入状況			非公開情報 (情報提供者 確認用)	非公開情報 (被災地/周辺地域 ・医療関係者限定情報)							
都道府県コード	国指定がん診療連携拠点病院	国指定小児がん診療連携拠点病院	県指定がん診療連携拠点病院	放射線治療を行う病院	緩和ケア病棟のある病院	病院名()	病院のWEBページへのリンク	患者さんの窓口:がん相談支援センター				化学療法			放射線治療	緩和ケア病棟の状況	医療機関向けの他院からの患者受け入れ窓口:地域連携室など			医療機関向けの他院からの受け入れ状況			公開の可否 確認 可:○ 確認中:△ 不可:×	こちらは非公開用の医療関係者限定の情報です。 公開はできませんが、被災地の方々地支援の方々に有用な情報等がこちらに記載してください。
								窓口名称	電話	対応曜日・時間	がん相談対応状況	対応可否	可能な開始時期	臓器の限定など	放射線治療装置(リニアック)稼働状況		部署名	電話	対応状況	入院 可:○ 要相談:△ 難:×	外来 可:○ 要相談:△ 難:×	備考 (がん種や診療科による制限がある場合など)		
1	●	●	●			【記入例】 国立大学法人 ●●●附属病院	http://www.〇〇〇.jp/	がん相談支援センター	01-234-5678	月～金曜日 8時30分～17時15分	通常通り	可(個別対応)	随時	なし	稼働中	応相談	がん相談支援センター	01-234-5678	通常通り	○	○	緩和ケア病棟はありませんが、緩和ケア目的の入院も一般病床で受入れ可能	○	現在被災者の方々への受け、談に順次対応しております

決まっていたこと

- 下記施設より、被災地・周辺地域の拠点病院がん相談支援センターに、EXCELへの情報入力を依頼する。
 - ✓首都圏以外での災害発生時：国立がん研究センター
 - ✓首都圏 での災害発生時：九州がんセンター
- 依頼は、がん相談支援センターメンバーリングリスト（以下ML）にて行う。



- EXCELでの収集は効率的か？
 - MLに加入してるメンバーが出勤しないと依頼メールが受け取れない
 - どのタイミングでEXCELを提出するのかが分からない
- などの課題も。

WEBアンケートフォームでの情報収集に変更

災害時病院情報入力フォーム

目的 がん患者が長期にわたってがん治療から疎外される状況を防ぐ。

- ・災害発生から1週間後をめどに被災地・周辺地域ともに自施設の情報を入力をお願いいたします。
- ・入力いただいた情報は、国立がん研究センターまたは九州がんセンターがWEB公開します。
- ・被災地の相談員は周辺地域に被害状況を報告、知ってもらい、周辺地域の書き込みを見て、自施設の患者さんの転院や受診調整に活かすことができます。
- ・周辺地域の相談員は被害状況を把握し、協力できる部分を明示して被災地へのサポートをお願いいたします。

フォーム選択

被災県の方はAを、周辺地域の方はBを選択してください。

必須

- A_被災地 被害状況報告フォーム
 B_周辺地域 受け入れ状況登録フォーム

次へ

対応可否（薬物療法）

必須

- 可または応相談 不可

特記事項（薬物療法）

対応可否（放射線治療）

必須

- 可または応相談 不可

特記事項（放射線治療）

緩和ケア病棟の有無

必須

- あり なし



災害関連ページを目にとまりやすい場所に変更

がん情報サービス
ganjoho.jp

医療関係者向け

サイト内検索

小 大

一般向け > がん統計 > がんの臨床試験を探す >

がん対策情報 | 医療支援・相談支援 | 研修 | 拠点病院連絡協議会・フォーラム

医療関係者向け情報

情報を絞り込む: すべて 行政担当者

相談支援

地域開催の相談員研修

がん相談支援センター相談員サポート

国指定がん診療連携拠点病院等サポート

災害時関連情報

小児がん患者就学支援

①がん情報サービスの「医療関係者向け」に入る

②「相談支援」までスクロールする

③「災害時関連情報」のボタンを押す

フォーム入力のタイミングや目的・用途を記載

●相談支援 災害時関連情報

がん患者が長期にわたってがん治療から疎外される状況を防ぐため、災害発生から1週間後をめぐりに被災地・周辺地域ともに自施設の情報（患者受け入れ状況）の入力をお願いいたします。

- 入力いただいた情報は、国立がん研究センターまたは九州がんセンターがWEB公開します。
- 被災地の相談員は周辺地域に被害状況を報告、知ってもらい、周辺地域の書き込みを見て、自施設の患者さんの転院や受診調整に活かすことができます。
- 周辺地域の相談員は被害状況を把握し、協力できる部分を明示して被災地へのサポートをお願いいたします。

1. 災害発生時

- 首都圏以外での災害発生時：国立がん研究センター
- 首都圏での災害発生時：国立病院機構 九州がんセンター

より、被災地・周辺地域の拠点病院がん相談支援センターの皆様へ、下記フォームへの情報入力を依頼させていただきます。

災害時病院情報入力フォーム [🔗](#)

目的：がん患者が長期にわたってがん治療から疎外される状況を防ぐ

入力のタイミング：
災害発生から1週間後をめぐりに

用途：被災地の相談員は周辺地域に被害状況を報告、知ってもらい、周辺地域の書き込みを見て、自施設の患者さんの転院や受診調整に活かす等



https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/emergency.html

まとめ

- 被災地・周辺地域の拠点病院相談員が、WEBフォームで、情報入力を行う形に変更してもよいか？
 - 入力のタイミング（災害発生から1週間後）は妥当か？
- 問題なさそうであれば、次の内容の実施、県内周知をお願いします。

2. 事前の準備

事前の準備として定期的に、以下の2点をご確認ください。

1. 災害時病院情報入力フォームの入力項目の確認、院内情報集約ルートの確認
2. がん相談支援センターメーリングリスト (kyoten-cisc) の登録者確認と更新

メーリングリストの登録については、以下のページをご覧ください。

[「がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内」](#)

(国指定拠点病院のページのため、ログインには、共通IDとパスワードの入力が必要です)

本日の内容

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

8. その他

-オブザーバーからのコメント

-連絡事項

9. 閉会の挨拶

-部会終了後-

地域相談支援フォーラム報告

ブロック別ミーティング

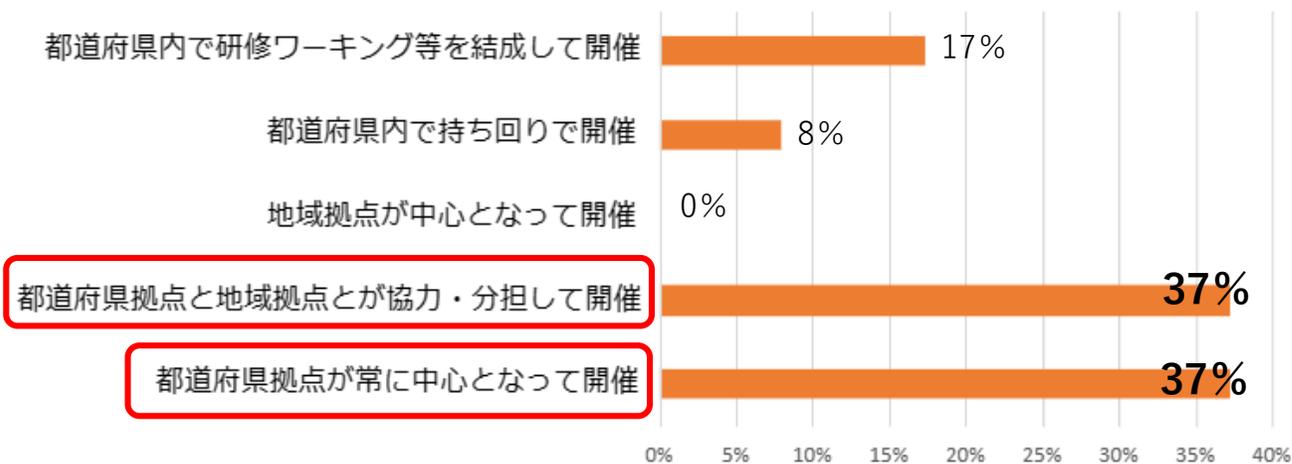
がん相談支援センター—相談員研修 および 国立がん研究センター—認定事業 について

1. 事前アンケート 研修企画・運営の現状
2. NCC主催 相談員研修
3. NCC支援 地域主催 相談員研修
メーリングリスト
施設別がん登録件数検索システム
4. NCC認定事業

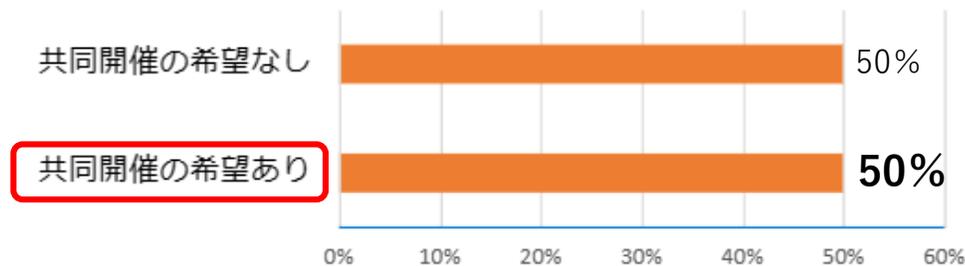
事前アンケート 研修企画・運営の現状

回答者（実務者のみ）：52/69人（75%）

【研修企画・運営体制】



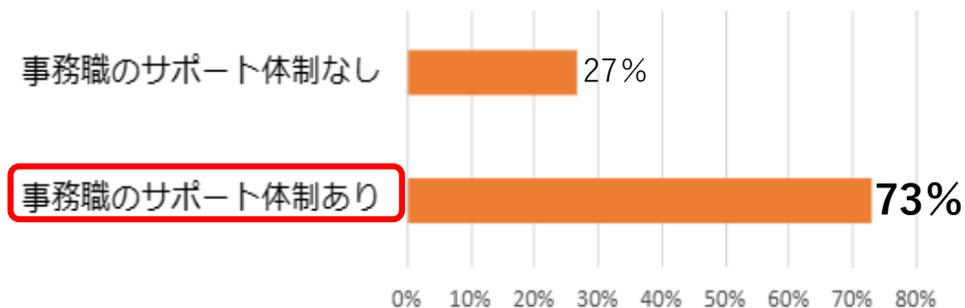
【他県との共同開催】



【予算】



【研修の事務職のサポート体制】



NCCが提供する相談員研修

がん診療連携拠点病院等の
整備について
令和4年8月1日

- がん患者や家族等が持つ医療や療養等の課題に関して、病院を挙げて全人的な相談支援を行うこと。
- 相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、相談員研修等により定期的な知識の更新に努めること。

都道府県拠点の要件

基礎研修(1)(2)

基礎研修(3) 専従2人以上

指導者研修 少なくとも1人

地域拠点の要件

基礎研修(1)(2)

基礎研修(3) 専従1人
専任1人

その他

スキルアップ研修

- 情報支援

● 基礎研修(1)(2) Eラーニング、無料コース

※有料コースは、知識の定着を目指したテストあり

内容 ・ がん・がん対策・予防・検診・治療に関する基礎知識など

応募 ・ 申込 1352人 (内訳: テストなし586人、テストあり504人、認定更新248人) *4月末時点

院内・外で
ご利用ください

● 基礎研修(3) オンライン2日間×4日程、事前学習+演習

国指定: 無料、非拠点: 有料

内容 ・ 相談員の基本姿勢、役割、コミュニケーションスキル、対象理解、連携など

応募 ・ 申込: 518人 (内訳: 国拠点376人、非拠点142人)、 受講決定: 336人

講師 ・ ファシリテーター48名、講師8名

推薦のご協力、ありがとうございました

● 指導者研修 オンライン、前期2日間、後期2日間、事前学習+演習

受講料: 有料

内容 ・ 前期: 研修企画・評価
・ 後期: 情報支援 (情報に基づく意思決定支援)

応募 ・ 申込: 52人、20都府県 (内訳: 都道府県拠点32%、地域拠点等68%)

地域開催 相談員向け研修の支援

がん診療連携拠点病院等の
整備について
令和4年8月1日

都道府県拠点の要件

当該都道府県の拠点病院等の
相談支援に携わる者に対する
継続的かつ系統的な研修を
行う

地域拠点の要件

当該都道府県にある都道府県
拠点病院が実施する相談支援
に携わる者を対象とした研修
を受講すること。

● 「相談対応の質保証を学ぶ（QA:Quality Assurance）研修」 **定番化推奨**

- 内容
- ・ 音声事例教材（1～11^{New!}）を利用可
 - ・ 面談場面のビデオ教材も利用可
 - ・ 2時間の研修も可
 - ・ 詳細は、https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/qakyouzai.html

● 「情報から始まるがん相談支援」研修講師派遣事業

**今年が最後
今後は2時間版をご用意**

- 内容
- ・ 「信頼できる医療情報を見極める力」「情報を理解、収集、整備する力」に焦点を当てた研修
 - ・ 詳細は、
https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/training_tdfk/johoshien/entry_2023.html

● 地域開催の研修企画コンサルテーション

いつでも、どうぞ

- 内容
- ・ 研修テーマの選定、プログラム構成、グループワークのテーマの絞り方など、NCCが相談に応じます。
 - ・ 詳細は、
https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/kyoten/training_support/consult.html

地域開催「情報から始まるがん相談支援」研修 講師派遣事業のご案内

「信頼できる医療情報を見極める力」「情報を理解、収集、整備する力」に焦点を当てた研修です。
がん情報サービスを活用して患者・家族等の意思決定を支援する力の向上を目指します（NCCが講師派遣・謝金負担）。

研修年	都道府県（カッコ内は共同開催県）
2022年	高知県（愛媛県・徳島県・香川県）
	岡山県
	鳥取県（島根県）
	富山県
2023年	秋田県
	和歌山県
	香川県（徳島県）
	群馬県（埼玉県）
2024年	広島県
	福岡県
	愛媛県
	熊本県
	京都府
	青森県（山形県）
	鹿児島県

講師派遣事業は、今年度で終了です

- 今後は、がん相談教育ネットワーク事業CCTNPのHPもご確認ください
- 地域開催をご支援する2時間版の教材提供を続けて参ります

- ・ インフォデミックの今、相談員個々がヘルスリテラシーを向上する必要があります。
- ・ ネットやSNSで非科学的な療法や健康食品などの情報が氾濫する中、情報を見極める視点を存分に学びます。
- ・ 患者向けガイドラインの活用可能性、施設内の情報整備の必要性も実感いただけます。

詳細はこちら

https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/training_tdfk/joh_oshien/entry_2024.html

がん相談教育ネットワーク事業（CCTNP）の中で 2024年に実施予定の研修

研修名	開催日	日数	受講料 (個人申込)	受講料 (都道府県申込)
CCTNP QA研修	2024年6月29日（土）	半日	5,500	55,000
CCTNP 情報支援研修地域版	2024年9月7日（土）	半日	5,500	都道府県申込 実施予定
CCTNP 相談員基礎演習	2024年12月14～15日 （土・日）	2日	16,500	都道府県申込 実施予定なし

* CCTNP：事業名の略称（Cancer Counseling Training Network Program）

* QA：質保証の略語（Quality Assurance）

研修 がん相談支援センター相談員研修

がん相談支援センター相談員基礎研修 (1) (2)

- 基礎研修 (1) (2) 研修修了 (テストなし) コース / 基礎研修 (1) (2) 知識確認 (テストあり) コース (募集期間: 02月29日 (木) ~ 08月31日 (土))

外部団体との共催研修

[がん相談教育ネットワーク事業](#)

- 相談対応の質保証 (QA) 研修 (募集期間: 05月15日まで / 開催日: 06月)
- 情報支援研修地域版 (募集期間: 調整中 / 開催日: 09月07日) ※詳細は1
- 相談員基礎演習 (募集期間: 調整中 / 開催日: 12月14~15日) ※詳細

がん相談教育ネットワーク事業

～Cancer Counseling Training Network Program (CCTNP)～

がん相談教育ネットワーク事業は、下記の5団体が協働し、医療者を対象にした「がん相談員研修」を通じて、受講生にがん相談の知識やスキルを提供し、がん専門相談員の役割を部分的に担うことができる医療者を育成することを目的とした事業です。

国指定拠点病院にとどまらず、広くがん相談に従事する相談員やがん診療に携わる医療従事者等、より多くの方々に研修の機会を提供することで、がん医療全体の質向上に貢献することを目指しています。

英語事業名: **Cancer Counseling Training Network Program (略称: CCTNP)**

協働団体

公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
一般社団法人日本がん看護学会
公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会
一般社団法人日本がん相談研究会
国立研究開発法人国立がん研究センター

事業運営資金

「がん患者支援の推進に対する医療者への教育プロジェクト」

がん相談教育ネットワーク事業 (CCTNP) のご案内サイト

メーリングリスト（ML）メンバー情報 定期更新のお願い

MLのメンバー情報は、「MLメンバー登録・変更システム」上で登録します。

病院を代表し、システム上で情報入力をする方＝事務連絡統括担当者（以下、事務統括）が決まっています。

以下の手順で、定期的な情報更新をお願いします。

1. 事務統括に連絡し、現在の登録内容を確認する
2. 変更がある場合、登録したい内容（担当者氏名とメールアドレス）を更新して、事務統括に渡す
3. 事務統括がシステム上で最新情報を登録する

■ **がん診療連携拠点病院がん相談支援センターML** : kyoten-CISC@ml-cis.ncc.go.jp

国指定拠点病院の相談員が加入するMLです。 **全ての拠点病院で入力が必要です。**

■ **情報提供・相談支援部会委員ML** : Joho_Sodan_Bukai@ml-cis.ncc.go.jp

・情報提供・相談支援部会の委員（実務者、責任者、その他責任者、計3名まで）が加入するMLです。

・ **都道府県拠点病院が情報を集約し、入力します。地域拠点病院での入力は不要です。**

・ **実務者、責任者は都道府県拠点所属者に限ります。**（その他責任者は都道府県拠点以外所属者も可）

■ **都道府県がん相談員研修連絡担当者ML** : nintei-pref@ml-cis.ncc.go.jp

・都道府県で実施するがん相談員研修の企画担当者（主、副、計2名）が加入するMLです。

・ **都道府県拠点病院が情報を集約し、入力します。地域拠点病院での入力は不要です。**（都道府県拠点が2つある県は1施設が代表して入力）

・ **主担当者は都道府県拠点所属者に限ります。**（副担当者は都道府県拠点以外所属者も可）

施設別がん登録件数検索システム

- 院内がん登録のデータを用いて、**症例数**を**施設別**に検索
- **希少がん**を含む**全てのがん種**で利用可
- システム導入施設 ※すべて相談支援センター内
 - 都道府県がん診療連携拠点病院（47都道府県）
 - 一部の地域がん診療連携拠点病院（11施設）
 - 国立がん研究センター（3施設）

詳細は https://ganjoho.jp/public/institution/consultation/cisc/hospital_search.html

- 2023年7月にリニューアル
- 講義資料および説明動画はこちら
https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/kyoten/tool/serch_system.html

- ✓ 数が多いほうがよい、と推奨するためのシステムではない
- ✓ 部位だけでなく、組織型の性質別に検索可
- ✓ セカンドオピニオン先の紹介だけでなく、現在の施設（担当医）との関係強化に活用可

結果参照

検索条件
【診断年】：2019年、【部位】：喉頭、【性状コード】：2:上皮内癌, 3:悪性
【都道府県】：関東甲信越すべて
【症例区分】：診断・治療共に自施設(2), 他施設診断・自施設治療(3)

注1：検索対象とは院内がん登録全国集計に含まれているがん診療連携拠点病院です。年によって施設が異なります。（→件数が同じ場合には、真番号順に（基本的に北から）表示されます。
注2：検索で当たったときには、国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービスサポートセンター 0570-02

対象件数：20/152件

病院名	症例数	都道府県	市
	58	埼玉	
	56	東京	
	48	千葉	
	38	神奈川	
	36	東京	
	36	東京	
	34	東京	

認定がん専門相談員



2024年4月現在 認定者数：391名

目的

国際がん情報サービスグループ（ICISG）が示す“Core Values”等の基本姿勢を遵守し、相談対応に必要な知識・情報を更新して継続的に学習する相談員を認定し、自己研鑽を支援する

* 申請・更新（3年毎）に必要な単位

I	II	III	IV	V
E-learningの受講 (32科目)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎研修（3）修了 情報支援研修修了（更新） 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県主催の相談員研修受講 研修の講師・ファシリテーター 	<ul style="list-style-type: none"> 学会・勉強会の参加 研修の講師・ファシリテーター 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の相談対応モニタリング

効果

- 継続的な学習機会の確保
- 相談員としての自信

要望

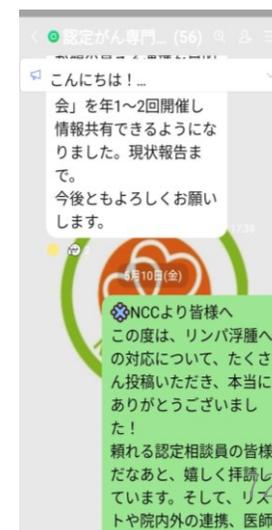
- 認定相談員同士の交流**
- 認定相談員のみを対象としたWeb研修
- 拠点の指定要件に必須になるとよい
- 診療報酬の加算対象にして欲しい
- 機能強化事業費で申請・更新料を出して欲しい

課題

- 認定取得の意義・メリットが曖昧**
- 認定をもたない相談員との相違が不明**



認定相談員の交流、情報交換を目的に
LINEオープンチャットをはじめました



認定がん相談支援センター



認定がん相談支援センター

2024年4月現在 認定施設：32施設

目的

相談支援の質を維持・向上に努めているか、相談対応を振り返り評価・改善に取り組んでいるかなど、一定の基準を満たした施設を「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」として認定し、体制整備を促進する

* 申請に必要な取り組み

マニュアル作成	部門内モニタリング 定期開催	情報源リストの作成	勉強会・事例検討会 の定期開催	院内の支援体制
具体的で活用性が高く、 掘りどころになるようなマ ニュアルの作成	相談の質保証、質の維 持・向上に向け、実際の 相談の録音をもとに課題 や改善策を話し合う事例 検討会の開催	<ul style="list-style-type: none">がんの診療ガイドライン の解説や書籍の整備・ 更新Webを含む各情報源 に対する信頼性評価	相談員のための勉強会・ 事例検討会の開催	患者、家族支援のための 院内連携などの取り組み

効果

- マニュアルの充実、活用可能性の高いものにできた
- 相談員が情報提供する範囲、留意点について合意形成できた
- 整備すべき事項に気づき、新たなルール作りに着手できた
- 質の高い情報整備は、相談対応の質の向上に直結する実感した

課題

- 情報整備の更新が大変

認定センター同士の交流会（オンラインサロン）

次回：第8回認定サロン 5/28（火）

テーマ：加速するがんゲノム医療！

がん相談支援センターの役割や取り組みを改めて考えよう（仮）



申請受付期間

2025年度認定がん専門相談員



2024年**11月1日**～**12月9日**

2024年度認定がん相談支援センター



認定がん相談支援センター

2024年4月1日～5月31日 当日消印有効

お待ちしております

詳細は募集要項をご参照ください。

国立がん研究センター> がん対策研究所> プロジェクト> がん情報提供部

国立がん研究センター「認定がん専門相談員」および「認定がん相談支援センター」認定事業

<https://www.ncc.go.jp/jp/icc/cancer-info/project/certification/index.html>



本日の内容

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

8. その他
-オブザーバーからのコメント

-連絡事項

9. 閉会の挨拶

-部会終了後-

地域相談支援フォーラム報告

ブロック別ミーティング

連絡事項

■ 第23回情報提供・相談支援部会

日時：**2024年11月21日（木） 13:00~16:00**

※オンライン開催いたします

情報提供・相談支援部会事務局

■ FAX : 03-3547-8577

■ mail: joho_sodan_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp

本日の内容

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

8. その他

-オブザーバーからのコメント

-連絡事項

9. 閉会の挨拶

-部会終了後-

地域相談支援フォーラム報告

ブロック別ミーティング

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会

地域相談支援フォーラム報告 ブロック別ミーティング

15 : 05 ~

地域相談支援フォーラムとは

「がん診療連携拠点病院などの整備について」（令和4年8月1日付け）に記載された「**継続的かつ系統的な研修**」のうち、**複数県が合同で開催している広域研修**

目的

- **近隣県の交流や連携に向けたネットワークの構築**
がん相談支援センター間、行政-拠点病院間、拠点病院-医療福祉施設間等
- **単県では解決困難な取り組みの検討**
例：臨床試験や希少がんに関する情報提供・相談支援等
- **好事例共有による均てん化、質向上に向けた取り組みの促進**
- 共通課題に対する基本的知識の習得や先進事例共有による活動の活性化

NCCの支援

- 挨拶または講評等
- 募集要項のがん情報サービスへの掲載
- 申し込みフォームの提供
- 情報提供・相談支援部会終了後の打ち合わせ機会の提供
- 部会委員などへの連絡の仲介

ぜひ、ご活用ください

地域相談支援フォーラム/ワークショップ

2012年度～

- :がん対策情報センター企画
- :公募企画
- :自主開催



● 2023年度地域相談支援フォーラム報告

1. 地域相談支援フォーラム in 宮城
発表：根本 直美（東北大学病院）
2. 地域相談支援フォーラム in 福岡
発表：松尾 由佳（九州がんセンター）

ブロック活動の実際および
成果をお聞きください

● ブロック別ミーティング

15:20～15:45（最長16:30まで） 自由解散

- 自己紹介
- 今年度の地域相談支援フォーラムのお打合せ
 - もしくは
 - ・ ブロックフォーラム開催に向けた各県の現状・意向のご確認
 - ・ ブロック単位で取り組む内容の検討（例：希少がん、AYA、臨床試験など）

➤ 当日の運営体制

実行委員メンバー：前年度指導者研修受講者3名+東北各県（宮城県以外）より計5名

当日ファシリテーター：グループワーク未実施のため、なし

運営会場：東北大学病院

（オンライン会議に関連した）外部業者の有無：なし

➤ 今回得られた学び・感想

●今回得られた学び

東北各県の拠点病院によるAYA世代の支援について活動報告があり、まだ発展途上な面もありながらも、各県や医療機関で支援体制を構築しようと努力していることが理解できた。

清水先生の講演により、AYA世代の支援の現状や課題について具体的に学ぶことができた。また、田中先生の講演では、若年がん患者さんの在宅療養支援事業の制度化までの経緯を実体験として語っていただき、私たちが実際にアクションを起こす際の指針となるような内容であった。

●感想（参加者より）

- ・すべてが具体的かつ実践的な内容であり、大変参考になりました。
- ・支援体制の必要性を声に出して行くこと、そして、仲間を増やして行くことが大切と思いました。
- ・様々な県の取り組みについて知ることができ、刺激になりました。
- ・他県にも同じ思いを持った方々がいらっしゃることは、すごく力になりました。

■ テーマの検討過程 / 選定の理由

以前より、若年がん患者さんの在宅療養支援事業が一部地域で設けられているとの情報を把握していたが、東北に関してはほとんど実施されていない現状であった。最近AYA世代が着目されてきていること、一方で社会資源が未だ十分に整備されていない現状であることから、この企画をきっかけとして東北6県でも事業の普及・啓発につなげられないかと考え、このテーマを選定した。

■ 講師選定の過程 / 理由 / やり取りの工夫 等

清水先生：AYA世代の支援についてまとめられた冊子の中に、社会資源の地域間格差について記載のある記事を発見。執筆者を探る中で、国立がん研究センターを通して清水先生におつなぎいただき、メールで相談。ご快諾をいただいた。

田中先生：前回の地域相談支援フォーラムにて、福島県より若年がん患者さんの在宅療養支援事業について報告あり。発表者に連絡を取ったところ、福島県のがん相談支援部会にて講師候補者について選定いただけることに。結果、田中先生と県職員の方を挙げていただき、より現場に近い立場にある田中先生にお願いをすることとなった。

■ 企画・運営における他都道府県との関わり

実行委員を各県から1名選出いただき、実行委員の打ち合わせをオンラインで開催した。

(打ち合わせの場で、フォーラムの概要や各県からの活動報告のテーマを共有し、活動報告用のスライド作成を依頼。)

■ 当日の運営の様子・工夫

主要メンバーは午前中から集合し、役割分担や進行方法について最終確認。
講師以外に、東北6県からの報告担当者にも開催前にZoom入室いただき、接続テストを実施した。

■ 企画者としての感想 / 学び ・ 参加者の反応

フォーラムでは毎年東北各県から、その時のテーマに関連した活動報告をいただいているが、今回、AYA世代の支援についても、お互いの実践を共有できる貴重な機会となった。地域は違えど、日頃相談を受ける中で抱える悩みや葛藤は共通するものであり、東北以外の県からの参加者も含めて、相談員としての連帯感を感じられたことがとても印象に残った。

■ ブロック内での引継ぎ/ブロック内の定期的な打ち合わせ

- 東北がんネットワーク患者相談室専門委員会会議（年2回）にて、進捗や開催の報告をし情報を共有。
- 詳細については、必要に応じて前回開催県の担当者に連絡を取り、情報共有を図った。
- 3月の会議にて、今年度のフォーラム当番県より各県に向けて、作業のスケジュールやマニュアルについての情報提供依頼あり。今回当県でフォーラム準備と並行して作成していたアクションプランとマニュアルを当番県に提供した。

地域相談支援フォーラム in 福岡 開催概要

テーマ：今こそ原点回帰！～がん専門相談員の魅力・可能性を語り合おう～

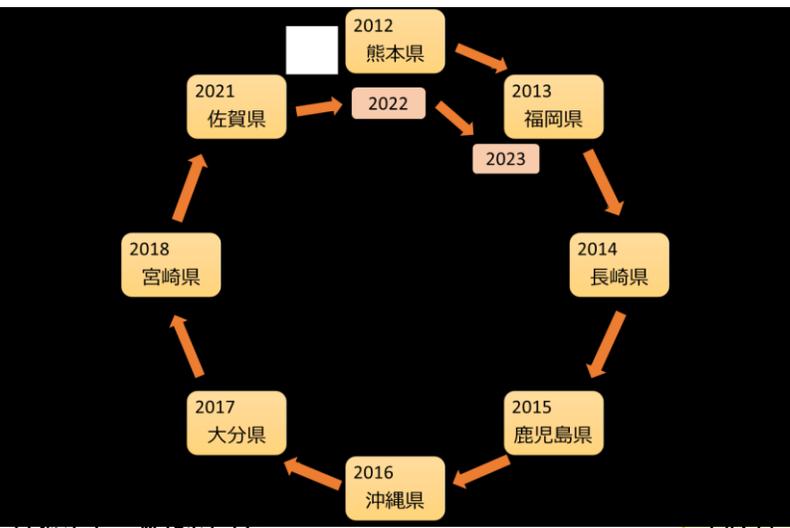
開催日時：2023年11月25日(土) 13時～17時

開催方法：オンライン

対象：がん専門相談員

主催：福岡県がん診療連携協議会
地域連携・情報専門部会

参加人数：100人



プログラム

時間	プログラム
13:00～13:10	開会挨拶 福岡県がん診療連携協議会 地域連携・情報専門部会 部会長 森田勝
13:10～13:50	各県からの取り組み発表
13:50～14:05	休憩
14:05～14:35	講演「相談者を支え続けるがん専門相談員の力」 国立がん研究センターがん対策研究所 がん情報サービスサポートセンター 櫻井 雅代先生
14:35～14:45	クлубディスカッション：導入
14:45～15:00	グループ移動・アイスブレイク・役割決め
15:00～15:35	グループディスカッション： テーマ「相談員の魅力・可能性を語らんね」
15:35～16:05	全体共有
16:05～16:20	休憩
16:20～16:35	講演「がん相談支援の今後について」 九州がんセンター 院長 藤也寸志
16:35～16:40	オブザーバー講評・総括
16:40～16:42	次年度開催県（長崎県）ご挨拶 長崎大学病院 田浦直人先生
16:42～16:47	事務連絡
16:47～17:00	閉会挨拶 九州大学病院 がんセンター長 馬場英司

➤ 当日の運営体制

実行委員メンバー：13名(福岡県内のみ、センター長、事務員、相談員)

→サブグループ(事務局、各県の発表企画担当、相談員の交流企画担当)制

当日ファシリテーター：9名(福岡県内の相談員)

運営会場：アクロス福岡

(オンライン会議に関連した)外部業者の有無：あり

➤ 今回得られた学び・感想

相談員に求められる業務は増加するなかで、日々、悩みながらも孤軍奮闘しながら懸命に業務にあたっている現状がある。フォーラムは他県で取り組んでいる工夫などの情報交換の場であったり、相談員同士で想いを共有することができるピアサポートの場としての役割があると感じた。



■ テーマの検討過程 / 選定の理由

急速に進化するがん医療の中で、がん専門相談員に求められる役割は拡大し業務に追われ、相談員として大切にしなければいけないことや、相談員としての魅力などを見失いそうな現状がある。そこで、九州・沖縄地区の相談員が、がん専門相談員の役割について再確認し、魅力や可能性を共有することで明日への活力になるような内容にしたいと考えた。

■ 講師選定の過程 / 理由 / やり取りの工夫 等

- ・ 同じ相談員という立場だからこそ、がん相談支援センターの成り立ちや、がん専門相談員に求められる役割、価値や魅力について伝えることができるため。
- ・ 講師とのやり取りは、メールのやり取りに加え、オンライン会議を5回程度実施。実行委員の中のグループディスカッション(以下、GD)担当者と講師で、何度も「相談員の魅力とは?」「相談員になって学びや気づきはあったか?」「日頃、相談員として大切にしていることは?」といったリフレクションを繰り返すことで、事前課題の内容や当日のGDの達成目標などを明確化・共有化を行なった。
- ➡ 難しいテーマ(答えのないテーマ)ではあったが、運営・講師・ファシリテーター・参加者がディスカッションの目的を見失わずに想いを言語化し共有することができた。

■ 企画・運営における他都道府県との関わり

- ・ オンライン開催ということもあり、運営は基本的に自県ですべて担当した。
- ・ 前年度開催県から、アンケート結果や運営スケジュールなどの資料を提供してもらった。
- ・ 各都道府県からの取り組み発表の取りまとめと広報については、各県の都道府県拠点病院へ依頼した。
- ・ 次年度の開催県へ、使用したマニュアルやアンケート結果などについて共有した。

■ 当日の運営の様子・工夫

- 県拠点からは、相談員以外に事務員も企画・運営メンバーとして初回から参加してもらうことで、当日の事務的なことをスムーズに依頼できた。
- グループディスカッションを担当するファシリテーター向けに、フォーラムの2週間前と当日の午前中にファシリテーターミーティングの時間をしっかり確保した。
- オンライン開催であったが、当日のトラブル防止のため講師とファシリテーターは会場に集合してもらった。

■ 企画者としての感想 / 学び ・ 参加者の反応

- 約1年かけて準備するため大変ではあるが、県境を越え受診する患者さんもいるため顔が見える機会となり連携がより強化でき、少ない配置の病院の相談員にとっては想いを共有できる場になり、行政や患者会との関係づくりの場になったりとメリットも多い。規模や内容を工夫し継続することが相談員の助けに繋がると思う。
- 院長や相談支援センター長の理解があり、企画の段階から協力が得られたのがよかった。
- オンラインは県外の相談員と話せる機会が持てる、一方、現地開催は直接会って意見交換した方が盛り上がると、開催方法について双方の意見あり。

〔アンケートの自由記載より〕 *一部抜粋

- 相談員として続けることに対して**漠然とした不安や自分の無力さを痛感していたが**、フォーラムに参加して九州各地の**相談員の話**を聞いて**前向きに頑張りたいと思った**。
- 普段の相談対応について、グループメンバーが悩んでいること、困難感を抱いている内容に共感することばかりで、**自分だけではなく悩みながらみんなやっていることに勇気づけられた時間だった**。

■ ブロック内での引継ぎ/ブロック内の定期的な打ち合わせ

- MP4への変換マニュアルなど、今後も共有できる資料はブロック内で共有できるようにした。
- 引継ぎは年間のスケジュールやプログラム、事後アンケートの結果等についてメールで情報共有をおこなった。